

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	かわさき新産業創造センター(KBIC)	評価対象年度	平成25年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人 川崎市産業振興財団 ・三井物産ファシリティアーズ株式会社共同事業体 ・代表者名 代表団体 公益財団法人 川崎市産業振興財団 理事長 曾禰 純一郎	評価者	次世代産業推進室 イノベーション推進担当課長
指定期間	平成24年4月1日～平成29年3月31日	所管課	経済労働局次世代産業推進室

2. 事業実績

利用実績	平成26年3月31日時点で、22企業・6研究室・1コンソーシアムが入居し、89.6%の入居率(面積)であった。平成25年度は、大面積居室の入居期限満了に伴う退去等があったことが影響し、1年間に入居募集を6回行ったが、入居率95%以上の目標を達成できなかった。なお、月単位での年間平均入居率(面積)は91.7%となる。
収支実績	収入 指定管理料:0円、利用料金収入:198,006,330円、事業収入:594,060円、 その他収入等:91,762,364円 合計:290,362,754円 支出 人件費:54,759,259円、事業費:33,899,726円、施設管理費:168,206,892円 合計:256,865,877円  収支は33,496,877円の黒字となった。
サービス向上の取組	インキュベーションマネージャーを中心に、計画値を上回るヒアリングや日常の情報交換によって要望・問題点を把握し、きめ細やかな対応を図るなど、入居企業への支援を行っている。 また、各種セミナーや技術講習会を開催するとともに、経営支援メニューの紹介、展示会への出展支援など、企業経営に資する事業を数多く実施した。 さらに、試作・加工ができる「ものづくり工房」において、技術アドバイザーによる試作支援や機器操作指導を行うことにより、ものづくり工房の利用率向上を図っている。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	利用者満足度	利用者満足度調査を適切に実施しているか	10	3	6
		利用者満足度は向上しているか			
		調査結果の分析を行い、満足度向上のための具体的な取組に反映しているか			
	事業成果	事業実施による成果の測定が適切に行われているか	10	2	4
		当初の事業目的を達成することができたか			
(評価の理由) 1社当たり年3回以上というヒアリング計画に対し、インキュベーションマネージャー等によって延べ598回、1社当たり平均23.9回のヒアリング等により、入居企業のニーズを把握するとともに、ビジネスマッチングや取引先開拓支援、各種公的支援メニューの獲得支援等、入居企業への支援に取り組んでいる点は評価できる。また、当初の事業計画のとおり支援メニューを着実に実施するとともに、研修・講習会でアンケートを実施して入居企業以外の者を含む利用者のニーズの把握に取り組んでおり、講座の開催日の工夫や自転車置き場の整備等、具体的な取組が一定程度行われている。 一方で、入居率や卒業企業の市内立地率、売上高増加率については、目標達成に至らなかった。					

収支計画・実績	効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	7	2	2.8
		支出に見合う効果は得られているか			
		効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組は為されたか			
	収入の確保	計画通りの収入が得られているか	7	4	5.6
		収入増加のための具体的な取組が為されているか			
	適切な金銭管理・会計手続	収入と預かり金等を区別し、適切に管理を行っているか	6	5	6
事業収支に関して適正な会計処理が為されているか					
<p>(評価の理由)</p> <p>収入は、貸室利用料の増を中心に予算を上回り、全体として17,366千円の増となった。また、支出は、専門家報酬等の人件費や消耗品費を中心に経費節減を行うとともに、委託契約の際の契約差金等が重なり、16,132千円計画を下回った。よって、収支では33,497千円の黒字となった。</p> <p>収入の増と経費節減等により、支援回数等の目標はクリアしつつ安定的な事業執行がなされているが、入居企業の成長や卒業企業の市内立地など、施設設置目的に沿った目標指標については、達成には至っておらず、事業費の効果的な支出については、さらなる改善の必要があると考えられる。</p>					
サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	4	8
		サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
	業務改善によるサービス向上	実施計画と実際のサービス提供に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	10	3	6
		業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか			
		業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか			
	利用者の意見・要望への対応	利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか	10	3	6
		意見・要望の収集方法は適切だったか(十分な意見・要望を集めることができたか)			
		利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
	<p>(評価の理由)</p> <p>入居企業に対し、インキュベーションマネージャー等が目標回数以上のヒアリングを行うとともに、入居企業支援記録(支援カルテ)を作成し、その後の成長支援業務等に活用している点は評価できる。入居者・利用者へのアンケート等により利用者ニーズの把握を行い、自動販売機の内容変更や自転車置き場の設置、各種セミナーの開催日の工夫など、業務への反映を行っている。</p> <p>計画と実際のサービス提供に大きな乖離は無く、入居率等の目標は経済状況や入居企業の意向等、指定管理者の努力以外の要因に左右されるものであるが、目標達成に向けた改善策の検討と実施については、さらなる対応が必要であると考えられる。</p>				

組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員(人数・有資格者等)が必要な場所に適切に配置されているか	3	3	1.8
	連絡・連携体制	定期または随時の会議等によって所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	再委託管理	再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか	3	3	1.8
	安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	3	3	1.8
		緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換等を行っているか			
	コンプライアンス	個人情報保護、その他の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	3	3	1.8
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	3	3	1.8
環境負荷の軽減	環境に配慮した調達や業務実施が行われているか				
<p>(評価の理由)</p> <p>事業計画に基づき、入居企業の成長支援のためのインキュベーションマネージャー等のスタッフの他、クリーンルームの管理運営に必要な専門的知識を有する設備管理スタッフ等を配置し、業務を遂行している。また、市担当者との定期的な会議等において入居企業や施設管理等の状況について報告し、必要に応じて指示を受けるなど、市担当者や業務の実施状況の情報共有を図りつつ、業務にあたっている。</p> <p>企業支援の過程で得た情報や重要資料等の管理に当たっては、マニュアルを整備し、適切に実施している。</p> <p>また、施設内照明器具のLED化や収支差益を活用した日射調整フィルムの設置を行うなど、環境負荷の軽減に努めている。</p>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	8	4	6.4
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	7	4	5.6
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか			
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
外構・植栽管理	外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか	<p>(評価の理由)</p> <p>施設・設備の保守管理については、利用規定を整備し、研究棟及びクリーンルーム棟の供用開始にも適切に対応するなど、入居者への施設の安全な利用環境の提供を行っている。また、施設内の清掃や外構・植栽の管理について、事業計画に基づき適切に実施し、清潔で快適な環境の維持に努めている。</p>			

#### 4. 総合評価

評価点合計	65.4	評価ランク	C
-------	------	-------	---

#### 5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

個人の創業、企業の新たな事業分野への進出及び企業を支える基盤技術の高度化を促進するという、本施設の設置目的を踏まえ、企業等に対する事業スペースの提供に加え、目標回数以上のヒアリング等、成長支援を実施している点は評価することができる。また、市内企業のものづくり基盤技術の高度化に向けた支援についても、施設内の設備の利用環境を整え、入居企業の試作や加工の支援を行うとともに、3次元CAD/CAM講習会をはじめとするものづくりに携わる技術者向けの充実した内容の研修を実施している点も評価することができる。さらに、施設の管理についても大きなトラブル等発生することなく、対応が行われている。

一方で、33,497千円という黒字を出しながら、入居率・卒業企業の市内立地率・入居企業の売上高増加率という面で目標が達成できなかった点は、将来の空室リスクに備えある程度の収支差益が必要という側面はあるものの、さらなる対応が必要であると考えられる。

#### 6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

入居企業の更なる経営安定、技術力向上を図るための支援を実施するとともに、現状行われている高いレベルでの施設管理を維持向上し、利用者への安定した利用環境を整えるよう指導していく。その上で、平成25年度は入居率・卒業企業の市内立地率・入居企業の売上高増加率という面で目標が達成できなかったことを踏まえ、収支等の状況を踏まえながら、専門家の増員やマッチングイベントへの出展数を増やす等、有効な対策を協議・検討していく。

ものづくり基盤技術高度化支援の研修等については、さらに広報活動に力を入れ、受講者の増加を図るとともに、技術・経済状況の変化や市内ものづくり企業のニーズを踏まえたものとなるよう指導を行う。